

愛知国際アリーナ課の主な取組

愛知県スポーツ
推進計画基本施策
I・V

1 IGアリーナ（愛知国際アリーナ）の概要

現体育館は、施設の老朽化とともに、規模・機能がスポーツの国際大会を開催するための国際水準を満たしていない。2026 年のアジア・アジアパラ競技大会に利用できるよう、2025 年 7 月のグランドオープンに向けて新体育館の整備を進めている。

(1) 事業計画地

名城公園北園の一部 約 46,000 m²
(名古屋市北区名城 1 丁目 2)

(2) 規模等

建築面積 約 26,500 m²
延床面積 約 63,000 m² (地上 5 階)
最高高さ 41.0m
最大収容人数 17,000 人 (立見含む)

(3) 事業手法

P F I 手法の「B T コンセッション方式」により、
設計・建設から維持管理・運営を一体として民間事業者が実施

(4) 事業期間

設計・建設 2021 年 6 月～2025 年 3 月 (3 年 10 か月)
維持管理・運営 2025 年 4 月～2055 年 3 月 (30 年)

(5) 事業者

株式会社愛知国際アリーナ

代表企業：＜設計・建設時＞ 前田建設工業株式会社

＜維持管理・運営時＞ 株式会社 N T T ドコモ

その他の：Anschutz Sports Holdings (Anschutz Entertainment Group)

出 資 者 三井住友ファイナンス&リース株式会社 等

(参考) ネーミングライツパートナー

(株) 愛知国際アリーナが、I G グループと契約を締結したことを発表 (2024 年 2 月)

【外観】隈 研吾氏のデザインによる樹形アリーナ



©AIA Corporation

2 主な施設

(1) メインアリーナ

ハイブリッドオーバル型（オーバル型＋馬蹄型）の
観客席と 30m 以上の天井高さを確保

(2) サブアリーナ

県民のスポーツ活動や文化活動の拠点となるサブア
リーナやスタジオ等を整備



3 維持管理・運営

- 最新技術を活用した維持管理システムを導入し、計画的にアップデートすることで、常に最先端のスマートアリーナとし、顧客満足度を最大化
- 世界最先端のスマートアリーナにふさわしい最新の観戦・鑑賞体験をセンタービジョンや国内アリーナ最多相当数のモニターなどを配置して演出
- ICTを活用して、AR観戦やマルチアングル観戦など、非日常的な体験を提供

4 利用料金の主な内容

(税込)

区分	メインアリーナ	サブアリーナ
(※)一般利用	【平日】 825 千円 【土日・休日】 1,100 千円	【全部利用】 68 千円、【1/2利用】 34 千円 【1/4利用】 17 千円
興行利用	【平日】 8,800 千円 【土日・休日】 14,300 千円	<全部利用> 【平日】 1,210 千円、【土日・休日】 1,804 千円 <1/2利用> 【平日】 605 千円、【土日・休日】 902 千円

※営利を目的としないスポーツ、学校教育又は社会教育を行うための利用

5 スケジュール

2021 年度 : 契約、設計

2022 年度～ : 設計、建設工事（7 月着工）

2024 年度末 : 竣工・引渡し（3 月）

2025 年度 : 内覧会、開業式典等（5 月）

グラウンドオープン [大相撲名古屋場所]（7 月）

Bリーグ [名古屋ダイヤモンドドルフィンズ] 開幕（秋）

フィギュアスケートグランプリファイナル（12 月）

2026 年度 : アジア・アジアパラ競技大会(2026/愛知・名古屋)（9 月～10 月）

【大相撲時イメージ】



【バスケットボール時イメージ】



【スケート時イメージ】

